

運動・スポーツというتماず筋肉を思い浮かべる人が多いかもしれません。しかし、筋骨隆々でなくともすばらしいスポーツ選手はたくさんいます。彼らの能力のすばらしさはどこにあるのか、その答えはスポーツの世界に限定されたものではなく、社会に還元できるものではないのか。感覚や認知を手がかりに研究に取り組んでいます。趣味は、子どもとの散歩、B級グルメ、音楽鑑賞。

1. 専門演習の目標

この演習では、スポーツや日常生活における運動や行動を広く対象として扱い、そのメカニズムの解明やその社会への応用方法などについて、自ら課題を見つけ、その課題を実験や調査によって検証し、卒業論文としてまとめることを目標とします。

2. 専門演習で扱う課題と内容

この演習では、スポーツや日常生活に見られる人の運動・行動すべてを対象として扱います。人を機械的に生きる生物の「ヒト」としてではなく、心理的、社会的背景を持った1人の人間として捉えた上で、その運動・行動のメカニズム、よりよい「動き」とは？といった問いに対して実験、調査を通して探求していくこと、さらにはその発展として、子どもの運動指導やリハビリテーション、生活環境のデザイン、運動用具やトレーニング方法の開発などといった社会の発展に寄与する新しい提案を行っていくことを最終的な課題とします。

このため、広く社会の中に存在するスポーツ・日常の中にある問題を自ら発見し、自分の研究テーマへと発展させることは当然ですが、人体の解剖学や生理学に関する基礎知識、実験・調査方法の習得、論文・文献の読み込みを経て、そのテーマを自ら検証していくことが演習で行う内容になります。

3. 授業の進め方・内容

3回生前期：教科書の輪読や簡単な演習を通して専門的基礎知識の習得を目指します。

3回生後期：簡単な演習を通して実験・調査手法の基礎を学ぶと共に、各自の興味にそった論文を読んでいます。

4回生前期：各自で課題を設定し、実験・調査を行います。

4回生後期：実験結果の解析を行い、卒業論文をまとめます。

*人のつながりが大切だと考えていますので、イベントなど、暇さえあればメンバーが集まり、わいわいと議論しあえるような開放的なゼミの運営を目指しています。

*実験・調査等、内容によっては通常の演習時間内に行うことが難しいこともあります。その際は各自の都合に合わせて行います。

4. 必要とする知識

必要となる知識はたくさんありますが、「やる気」が一番。やる気と根気があれば何とかあります。

5. 関連する分野・科目・知識

生理学、心理学といった分野を基盤としており、関連する講義としては、「ウエルネス論」、「スポーツのサイエンス」、「ヘルスマネジメント論」が挙げられます。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

特に指定しません。個人の関心に依じて随時紹介します。

7. 独自に付加する選考方法

必要に応じて面接を行う場合があります。メールにて連絡しますので、必ず大学からのメールを受け取れるようにしておいて下さい。

8. 受講生に望むこと

とにかく積極的な「やる気」を持った人を歓迎します！今、何が出来るかはあまり問いませんので、ゼミで「何かをやってやろう！」という気持ちを持った人、遊び心のある人に参加してもらえればと思います。